

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

1.	文学部	教育 1-1
2.	人文科学府	教育 2-1
3.	比較社会文化学府	教育 3-1
4.	教育学部	教育 4-1
5.	人間環境学府	教育 5-1
6.	実践臨床心理学専攻	教育 6-1
7.	法学部	教育 7-1
8.	法学府	教育 8-1
9.	法務学府	教育 9-1
10.	経済学部	教育 10-1
11.	経済学府	教育 11-1
12.	産業マネジメント専攻	教育 12-1
13.	理学部	教育 13-1
14.	理学府	教育 14-1
15.	数理学府	教育 15-1
16.	システム生命科学府	教育 16-1
17.	医学部	教育 17-1
18.	医学系学府	教育 18-1
19.	医療経営・管理学専攻	教育 19-1
20.	歯学部	教育 20-1
21.	歯学府	教育 21-1
22.	薬学部	教育 22-1
23.	薬学府	教育 23-1
24.	工学部	教育 24-1
25.	工学府	教育 25-1
26.	芸術工学部	教育 26-1
27.	芸術工学府	教育 27-1
28.	システム情報科学府	教育 28-1
29.	総合理工学府	教育 29-1
30.	農学部	教育 30-1
31.	生物資源環境科学府	教育 31-1
32.	統合新領域学府	教育 32-1

産業マネジメント専攻

- I 教育水準 教育 12-2
- II 質の向上度 教育 12-5

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、定員充足率が一定の水準にあり、適切な教員配置を行うなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、改善体制が整備されるとともに、ファカルティ・ディベロップメント（FD）アンケートの集計結果によれば、授業の知的価値、担当教員、講義技術、全体的評価・満足度に関する学生の評価スコア平均は、高い水準を保つなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、産業マネジメント専攻の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、産業マネジメント専攻が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

2. 教育内容

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、アジアで活躍できる国際的なビジネス・プロフェッショナルを育成すべく、アジア・ビジネスに関する多様な科目を配置するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、フルタイムの職業を持つ社会人の学生

のために長期履修制度、リカレント聴講生制度が設けられており、アジアビジネス教育のために外国人教員の招聘、交換留学生制度、国際的教育交流を実施するなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、産業マネジメント専攻の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、産業マネジメント専攻が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

3. 教育方法

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、ビジネススクールにふさわしい教育の方法として、双方向型、グループワーク、演習形式に力を注ぐなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、学習支援のために、指導教員による個別指導、QBS ラウンドテーブルによる問題意識の共有を図るなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、産業マネジメント専攻の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、産業マネジメント専攻が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

4. 学業の成果

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、学位授与状況が高水準にあることから、学生が身につけた学力等はおおむね良好な状況にあると推察されるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、学生の勉学意欲は旺盛で、当事者意識が高く、また学生による授業評価は相当高いなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、産業マネジメント専攻の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、産業マネジメント専攻が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

5. 進路・就職の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、社会人学生の大半は勤務先企業で引き続き勤続しており、大学院博士後期課程への進学者も見られるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、多くの修了生は、勤務先企業において昇進、国際ビジネスへの配属がなされ、起業家となる人も少なからずおり、また、博士後期課程進学者等も見られるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、産業マネジメント専攻の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、産業マネジメント専攻が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

II 質の向上度

1. 質の向上度

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

相応に改善、向上している

[判断理由]

「相応に改善、向上している」と判断された事例が 8 件であった。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間終了時における判定として確定する。